

# ひるば

平成28年3月発行

【編集・発行】

大分県公民館連合会

大分市府内町3-10-1

電話 097-506-5561

## 優良公民館紹介

第68回優良公民館(文部科学大臣表彰)

### 中津市今津コミュニティセンター

中津市今津コミュニティセンターは、旧公民館の老朽化に伴い、平成27年5月に新築された。場所は、校区の中心部、小学校と中学校に囲まれたところに移り、学校と地域社会の連携がより強まっている。建物は、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを採用し、地産材をふんだんに使用したぬくもりのある施設となっている。名称は公民館からコミュニティセンターに変更されたが、教育委員会が所管する地区公民館の性質、機能を維持した住民にとって最も身近な社会教育施設となっている。

施設職員は館長(嘱託)1名だけであるが、住民の自治組織である今津コミュニティセンター運営委員会が多様な公民館運営に関わる業務をサポートしており、住民にとって「わがまちのセンター(公民館)」という意識がとて高い。館長が年度毎に提案するセンター活動基



本方針は、運営委員会において承認、点検、評価が行われている。また、運営委員会が中心となり、年に一度開催される「今津校区ふれあいわいわい祭り」は、地域住民約1,000人が参加する校区の一大イベントとなっている。以前は、学校、老人会、公民館がそれぞれ単独で行っていた祭りを統合したもので、これにより地区や年代を超えた交流が一層深まっている。

中津市では、全ての校区において、地域ぐるみで子どもを見守り育てる安全、安心な地域づくりを目指して、公民館毎に校区ネットワーク会議を組織し、学校支援活動、放課後支援活動を行っている。そして、この今津校区協育ネットワーク会議が基盤となり、住民主導型の「いきいき今津まちづくり協議会」が平成26年7月に発足した。公民館において、先進地視察や住民意識調査、地域づくりワークショップを実施する中で、自分たちの地域は自分たちでつくっていかなくてはならないという意欲や責任感、故郷を守ろうとする住民相互の仲間意識が醸成した。現在、コミュニティセンターが事務局となり、地域課題ごとに6つの部会を設けて、地域課題解決に向けて取り組んでいる。



「公民館活性化に向けた調査研究事業」

日田市桂林公民館

「桂林大人の部活」

公民館の達成目標は言うまでもなく「地域と公民館の活性化」であり、それを支援する日田市公民館運営事業団のキャラクターが「あっ！公民館に行こう。」である。この文言が日常の「コマ」として実現出来れば、地域と公民館の繁栄に役立つだろうと、想いを巡らした事が「桂林大人の部活」構想の原点である。そして、参加者の自主性を重視する新しい公民館利用形態のモデル構築を意識したのである。

そんな想いの中、「学生時代の部活をそっくりそのまま公民館事業に！」という趣旨に多くの賛同を頂き、「利用者が想う活動を公民館に持ち込む」という構想には「ミドル山の会」の発起人が協賛し「原のモデル公民館認定採択以前に、39名を集め部活を発足させたのが実働のスタートとなる。

桂林大人の部活 実働/活動の要約

- (1)地域住民・地域内外者などが、仕事を終え退社の途中や週末、夏にせよ「時間むだ」の利用を申し込んでも、趣味や好きな文化/運動などの活動の出来る場所として公民館を提案。(集まる場・活動の場としての公民館の提供)
- (2)地域に点在する愛好家や部活に誘われたい趣味や観劇のマニアたちに、個別や系統別公民館における個人登録を促し、同じ趣味同士の愛好家同士の紹介と引き合わせを取り行い、部や会としての組織活動の発展を促す。(集の構築)
- (3)誰よりも引取りかめたいの方々のために、公民館でお茶でも飲みながら語り合いませんか？的な集まりを呼びかける。(外出のきっかけ作り-支援の集まり)
- (4)地域内に既存する同好会・趣味グループの「桂林大人の部活」としての登録を促して、会や建物内で可能な運動、交流の場として公民館施設を提供する。(活動の場・拠点としての公民館の提供)
- (5)遠距離での活動が主流の団体(山岳部・ゴルフ部・釣り部など)に於いては、会や集会場の場所として公民館を利用して貰う。(活動拠点としての公民館)
- (6)可能な限りの機会・手段をもって「桂林大人の部活」部活の告知、広報活動を行う。(自ら認知を持ち込んで部活を発足公民館を拠点と出来る事を支援する)

個人取り一人が好きなことをするだけの公民館利用が、「特別な意識を持つことなく「地域つり公民館の活性化に貢献する!」に影響を及ぼす。



広報活動

1年4ヵ月で達成できた広報や電話問い合わせを含むそれぞれの反応数

- 街頭掲示 109件
- 公民館案内 11件
- 新聞記事 4件
- PTA報告など 4件
- PTA報告など 109件
- 定期刊行物「あっ！公民館に行こう」を見て 109件

「あっ！公民館に行こう」の取組は、日頃お茶から集まりたい方に、「桂林大人の部活」の存在を呼びかけ、自ら自身の興味や趣味のグループを探して地域への参加などの定例拠点としての公民館を周知し、就業された活動の担い手として取り入れ、地域活動の推進に貢献する。

呼び掛けは公民館に来たことを「あっ！公民館に行こう」の取組は、日頃お茶から集まりたい方に、「桂林大人の部活」の存在を呼びかけ、自ら自身の興味や趣味のグループを探して地域への参加などの定例拠点としての公民館を周知し、就業された活動の担い手として取り入れ、地域活動の推進に貢献する。

更に、分裂危機の状態にあった伝統ある歴史研究会の勉強会の場としての申請も受理する事になる。その後本体は解散したが、残留組6名の新企画「日田文化サロン」が新装発足と成ったのである。

平成26年夏の事業開始当時は手探状態で、回覧板チラシを毎月発行し、周知の一環として出先の会合で配布と説明を繰返し、機会を見ては来館者に呼びかけ、口コミをお願いしていた。地区運動会では250枚のピラを配り説明すると、その日の夕方「ゴルフ愛好会」が入部して来た。貸館から「卓球愛好会」が移籍する等のPR効果は「公民館拠点の部活動」に興味を集め急増したのである。その多様化を判り易く図解で整理する事にする。

「しあわせかい？」と人の内面を気遣う「仕合わせ会」が発足、発起人の女性3人は、大人の部活も目指した究極とも言える「他人と一緒に行動に躊躇する引

きこもりの方々に声をかけて外に連れ出す」に思考錯誤する中、活動拠点の定着で現実化した「声かけのお茶会」を月に一回程度開催するまでに発展させたのである。そして漠然と集まる集会に止めず、情報や話題の収集に当たるなど充実に努めて、桂林大人の部活と同じ目標達成に向かつて邁進しているのである。

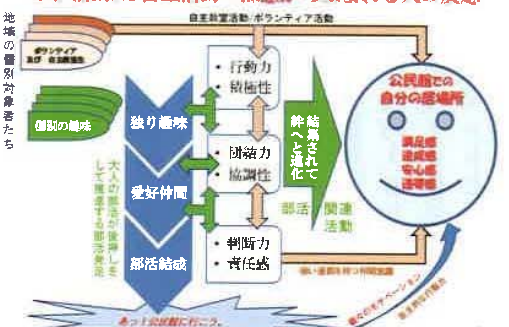
次の注目は「やわらかい会」(やわらかい)で、ヨガ本流派とは異なる「ヨガを媒体に人の輪を広げよう」とする柔らかい人達で、地域若手との交流を目指している。

仲間接しの個人登録者は「謡曲、ポップス、唱歌を唄う、ピアノ演奏を楽しむ、赤毛のアン」の和訳、ユーキャンで一緒に資格取ろう」等であったが、共通した「大人になると同趣味を持つ者との出会うの機会が無い」とのコメントから、公民館が「唱歌・ポップスを歌いたい」2人と「ピアノ演奏を楽しみたい」方々の仲立ちと成り「ピアノ生伴奏で歌う

会」を発足させたのである。桂林大人の部活が話題に上りTV番組で紹介されたが、その際に謡曲愛好家がPRの機会に恵まれ6~7人の活動に成長する等活気が起こり始めたのである。

桂林公民館の利用者延べ数は、月々少なくとも1000人を推移している。大人の部活は半年で新規利用者141人を集め活動へと導いたが、それが原因でこの当地行事を含め従来の事業や教室に支障を来した報告は一切挙がらなかった。この事実が「大人の部活の理念」が機能を果たし、部活と従来型の事業の両立が立証されたと考えられるのである。

「桂林大人の部活」本仕活動及び自主活動の熱意から生まれる人の反応



更に検証を進めると、今までは公民館の福利厚生の恩恵を理解する教育従事者と市関係者の家族・OB・縁者が多かった公民館利用に変化が現れ、異なる職業層や違う世代の方々、更に地域外からの集客が加わり、全く新しい事業形態と来館者開拓の成果として視え始めたのである。その反響に答えるべき近未来の公民館に求められるのは、この新しい利用概念を基盤にした、一人独りの想いが結集出来る公民館体制の構築だと考えられるのである。

検証して判った事は、部活動の源となる「参加者の多様性が生み出す行動に對するモチベーション」及び、事業形態を示す呼び名「部活」の当用が事業理念を象徴して注目目的を築いたと考えられるのである。

更に検証を進めると、今までは公民館の福利厚生の恩恵を理解する教育従事者と市関係者の家族・OB・縁者が多かった公民館利用に変化が現れ、異なる職業層や違う世代の方々、更に地域外からの集客が加わり、全く新しい事業形態と来館者開拓の成果として視え始めたのである。その反響に答えるべき近未来の公民館に求められるのは、この新しい利用概念を基盤にした、一人独りの想いが結集出来る公民館体制の構築だと考えられるのである。

日田市桂林公民館 館長 井上 敏幸

# 「地域力を高める公民館活性化モデル事業」

## 日田市高瀬公民館

### 「認知症に対する住民の意識の向上を通じた地域医療推進事業」

高瀬地区は高齢化率33%となっており、認知症予防は喫緊の課題である。

高瀬公民館では、各町内で行っている認知症予防教室「すずめの学校」等を支援しているが、参加者は女性主体であり、男女を問わず取り組める健康マージャンを導入することで、より多くの高齢者が参加できる環境を整えることにした。

また、日田市健康保険課や長寿福祉課、高瀬地区社会福祉協議会と連携し、認知症予防事業のメニューづくりや人材育成を目指した。

健康マージャンは従来の麻雀イメージを大転換し「賭けない、吸わない、飲まない」を基本にした初心者大歓迎の教室であり、厚生労働省が主催する「ねんりんピック」の公式種目としても認められていることや、手指を動かし、頭を使い仲間と楽しめることから高齢者の健康づくり、とくに認知症予防に効果があると考えられ、その実証研究も行われているところである。



そこで、本館では平成26年度末に公民館運営委員会視察研修で先進地である佐賀市立神野公民館を訪ね、健康マージャンの実情を視察、平成27年7月にはマージャン指導者候補

3名と共に教室を始めればかりの佐賀市立北川副公民館に教室開講のノウハウを学んだ。

その後、8月26日、27日の2日間にわたって公募したマージャン



経験者10名を対象に、健康マージャン指導者養成講座を開講した。この講座にはNPO法人健康麻将全国会から講師を招聘し、指導者としての心構えやマージャンの正式ルール、点数計算等について学習し、教室開講に向けた取組が始まった。

さらに9月10日以降4日間、週1回の日程で健康麻将全国会の動画を見ながら指導法について自主学習を行った。全員がマージャン経験者ではあるものの、自己流、グループ流のルールや点数計算に囚われており、大いに戸惑いながらの学習であった。最終日の10月2日にはうきは市の健康マージャン指導者を招聘して指導のポイントを学び、教室開講に備えた。

このような指導者養成講座の過程で指導者として適任と認める7名を推薦し、健康麻将全国会の地域指導者認定証の交付を受けた。

10月1日の公民館だよりで健康マージャン教室生を募集し、9名(男2、女7)が応募、雀卓は公民館主事の一人が手作り卓を2卓提供してくれ、何とか10月22日教室開講にこぎつけることができた。この日は先進地佐賀市からNPO法人活気会の東内理事さんを招聘、脳の活性化について話していただいた。

最初の8回は入門講座としてマージャン

のルールや役、点数計算の基礎等について学び、現在は初級講座を週1回のペースで楽しんでいるところである。教室生も回を追うごとに笑顔が増えており、意欲的になってきていることから、次年度も認知症予防の取り組みとして「健康マージャン教室」を継続発展させたいと考えている。

日田市高瀬公民館  
館長 山田 博行

## 豊後高田市田染公民館

### 「伝統文化継承のための地域人材育成事業」

田染地域は緑豊かな自然に囲まれた田園地域です。地域内には国宝富貴寺、国の重要文化財の真木大堂、熊野摩崖仏があり、国の重要景観の田染荘があるほか、神社、仏閣等さまざまな文化遺産が密集しています。人口は約1200名、学校の生徒は小(22)、中学校(16)合わせて38名です。急激に減少している地域です。田染公民館は、平成27年度新事業として3事業を立ち上げ、その中の1つがモデル公民館事業として行っている伝統文化継承のための地域人材育成事業です。

公民館・学校・地域が連携をして、伝統文化保存会を結成致しました。

目的は「一学校が元気・子供が元気・地域が元気」共通のテーマを掲げ、公民館は地域づくりと次



世代への継承を目的としています。

組織としては、まず田染12自治区の自治会長に委員になって頂き、各団体長・学校長で結成しています。会員は全戸に募集要項を配布し、各自自治会ごとに適任者を推薦して頂き、現在の各部のメンバーとなりました。田染音頭・田染民踊・榎採り唄の3部会に分かれ行っています。毎月第1金曜日が田染音頭・第2金曜日が田染民踊・第3金曜日が榎採り唄の練習を行い、イベントに参加しています。イベントに参加は5回で地域内の披露ですがいろいろな人に田染の良さを知って頂きたく為練習に励んでいます。学校へは要請あれば、文化財の講演、田染音頭・田染民踊等出前事業として指導に行きます。子供達も練習を重ね10月に行なわれた運動会の際には、前半のプログラムの最後に田染音頭・午後の部の最後に田染民踊を子供、先生、地域みんなで踊ることが出来て感激致しました。共に助け合い元気な地域づくりをめざし、活動を広げて行きます。

豊後高田市田染公民館  
館長 吉田 直美

# 平成27年度 大分県公民館連合会

## 公民館関係職員研修会

## 公民館新任職員研修会

## 公民館長・主事研修会の様子



### 公民館関係職員研修会

期 日 平成27年5月19日(火)  
会 場 別府市(社会教育総合センター)  
参加者数 94名

内 容 ○建設説明「地域づくりと公民館」

―大分県社会教育委員会議建議を受けて―  
講 師 大分県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼主幹

○事例発表「地域人材育成の取組」  
―原西ボランティアの会―

発表者 福岡市原西公民館  
館長 中島 裕子氏  
主事 五十嵐 五月氏

○グループ別情報交換  
「公民館の取組の情報交換を通じた  
地域の再発見」

参加者の声から

●単なるネットワークづくりではなく地域(人材)づくりまで視野に入れることは参考になった。

●地域から人が少なくなり、商店がなくなり、学校も廃校となり活気と活力がなくなっている。昨今ですが、福祉等取り入れた公民館活動が必要になるとの講義が参考になりました。

●地域との交流や、おしゃべりサロン、おせつ会などの取組は大事なことだと思われ、それをコーディネートした公民館の発想はすばらしいと思いました。

●研修を通して公民館の財産を再確認でき、それらを活用した新しい時代にふさわしい公民館活動への期待が伺えた。



### 公民館新任職員研修会

期 日 平成27年6月18日(木)  
会 場 別府市(社会教育総合センター)  
参加者数 39名

内 容 ○講義①「公民館職員」

―これだけは知っておこう―  
講 師 大分県教育庁社会教育課社会教育主事

○講義②「公民館における人権教育の推進」  
講 師 大分県教育庁人権同和教育課主任社会教育主事

○協議「公民館職員になって思うこと」  
進 行 大分県立社会教育総合センター職員

○講義③ 演習「公民館を発信する」  
公民館が地域住民にどのようにアプローチし市民活動を産み出すか」

講 師 特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表  
古賀 桃子氏

参加者の声から

●「学び」を知識の取得だけに留まらせないことが重要だと感じた。必要な学びの明確化をし、支援をしていきたい。

●自治会での人権教育など具体的な人権啓発方法を知ることができてよかった。

●公民館利用者には人権教育を必ず行おうと思った。子どもを核として地域住民をつなごうと思った。

●現在計画している仕事を成功させるためのヒントになる事例がたくさんあったので参考にしたい。



### 公民館長・主事研修会

期 日 平成27年7月10日(金)  
会 場 別府市(社会教育総合センター)  
参加者数 81名

内 容 ○講演「人間が大きく見えるまちづくり」  
―里山人間主義のすすめ―

講 師 広島県庄原市穂積町人間学研究所所長  
和田 芳治氏

○事例発表  
①「ボランティア組織の育成を通じた地域づくり」 湯布院公民館(由布市)

②「地域が一体となった取組を通じた地域づくり」 佐賀関公民館(大分市)

③「学校・家庭・地域の連携を通じた地域づくり」 三芳公民館(日田市)

○討 議「新たな地域社会づくりに向けて公民館の果たす役割は」

参加者の声から

●非常にポジティブな考え方で、元氣をもらうことができた。宝探しはしないで、あるものに知識・技・汗を加えて宝物にすることが「地域づくり」という言葉が印象に残った。

●始める前にあきらめていたこと、あまのじゃくの発想こそ大切なこと、やれることがいっぱいあることがよくわかった。

●これからの公民館職員には地域へ積極的に出向いたり、地域のために尽力することが求められていると感じた。

●各公民館の切り口の違う事例発表で、また昨今の各地域に共通した問題点を解決するための事例で参考になりました。



# 九州地区公民館研究大会 長崎大会に参加して



1日目は第6分科会「青少年教育」に参加し、地域の教育力への期待の大きさが実感された。

2日目の記念講演では、「ジャパネットタカタ」前社長、高田明氏の低い声に衝撃を受けた。本人曰く「あれは、つい力が入ってしまい高くなるので、本当は低い声なのです。」とのこと、お客様に良かれと思つて商品を選び、「思いは伝えないと伝わらない」そんな気持ちで仕事をやり続けているというのである。「夢持ち続け日々精進」の演題であったが、まさに高田明氏の生き方そのものであった。

いくら佐世保市出身とはいえ、企業の社長が公民館研究大会で講演することにも時代の流れを感じさせられた。人口減少社会を迎え、今まで以上に多くの人に地域づくりに参加していただく必要がある。そのためには、従来の自治会やPTAなどの社会教育団体に加えて、民間企業やNPO法人等との協働も必要になる。そのため、まちづくりのコーディネータとして、公民館職員の役割はますます重要になるであろう。

大分市市民部市民協働推進課  
参事 有田 憲仁



初の九州大会に参加したが、テレビショッピングで有名なジャパネットた

かたの高田明氏の講演が印象的でした。会社が目指す三つの「シオン」、即ちミッション・パッション・アクションを意識することや、企業も公民館活動同様に人が人らしく生きる社会づくりに貢献することを Motto にしていること等その原点は客目線（利用者目線）にたつた話に感銘を受けた。また、「不易と流行」を今年のテーマに掲げ、地域の独自性を発信し人々の幸せを求めて取り組む姿勢は公民館活動にも大いに重なると感じた。

高齢者目線で、地域の独自性を活かした活動を学ぶべく参加した第3分科会のテーマは、「高齢者の居場所づくりや地域と結びついた活動」の実践報告であった。松浦市今福公民館の特色は、地域の長寿会と連携し、生き生きとした生活の手助けとなる講座の開催である。また、佐賀市勸興公民館は、生活実態調査に沿ったふれあい食卓などの新規事業を展開し高齢者の孤立を防ぐ取り組みが報告された。双方の実践とも高田氏の講演と相通じた内容で、今後の活動に大きな示唆と、力強いパッション（情熱）を与えてくれた。

国東市国東中央公民館  
館長 岐部 準次

## 第57回全国社会教育研究大会 (第66回大分県公民館研究大会)

平成27年10月8日(木)～9日(金)にわたり、大分市においてホルトホール、コンパルホール、明日香美容文化専門学校において県内外から1,800人に及ぶ関係者が参加して盛大に開催された。

### 第6分科会 学びを支援する社会教育施設 テーマ 「協育」ネットワークを支える社会教育施設の在り方

第6分科会では「学びを支援する社会教育施設」ということで公民館の取組を全国の社会教育関係者に発信することができました。

中津市今津コミュニティセンターの発表では、大分県公民館連合会の委託事業「公民館活性化に向けた調査研究事業」を契機に、住民が熟議を重ね、校区の課題を共有し、まちづくり協議会方式による公民館を中心とした地域づくりの実践や発表を行っていただきました。

愛媛県新居浜市泉川公民館の発表では、公民館における学びをど



う住民の自治意識の向上に結びつけるのか、具体的なまちづくりの活動に結びつけていくかという実践事例や公民館活動における評価のあり方についての発表をしていただきました。フロアからも多くの活発な意見が出され、公民館の意義や今後の在り方等について議論を深めることができました。

2日目に行われたシンポジウムでは、大分県公民館連合会中野会長がシンポジストとして登壇し、「互いに助け合い支え合う『地域力』を高める社会教育の再生」をテーマとして、これまで社会教育に携わってきた経験を首長として市の行政にどう活かしているか貴重なご提言をいただきました。

今年度は全国社会教育研究大会との共催でしたが、公民館のすばらしい取組や実践を全国にしっかりと発信することができました。



中津地区公民館連絡協議会は、豊後高田市、宇佐市、中津市の3市の公民館からなる協議会である。各市の条例に定められた公民館は、豊後高田市25館、宇佐市33館、中津市25館の計73館ある。協議会では、生涯学習社会における公民館活動のあり方や当面する諸課題の解決に向け、研究・協議を行い、互いの交流を深めることによって公民館職員としての資質の向上を図ることを目的とし、年2回の研究会を開催している。



中津地区公民館連絡協議会では、2年毎に研究テーマを設定し研究を推進している。合併後2年間、メインテーマに「21世紀における、地域づくりをめざした公民館活動」、サブテーマに「合併後の公民館活動のあり方」を掲げ、地域の生涯学習の振興が衰退しないことを大前提

に合併後の公民館活動のあり方にせまった。平成19年度からは、研究テーマを「新しい時代



「新しい時代」にふさわしい公民館づくり」とし、3期6年間研究を行ってきた。サブテーマを1期ごとに替え、平成18年の教育基本法の改正、平成20年の社会教育法一部改正の中、社会教育施設としての公民館の新たな機能や役割、期待される姿を模索してきた。

研究を通して、「新しい時代にふさわしい公民館づくり」のイメージを3市で共有することができた。社会の変化により様々な地域課題が現れる中、そのイメージを具現化し、地域住民から存在価値が認められる公民館となることを目指し、平成25年度からテーマを「地域住民の幸せを見守り育む公民館」とし、現在2期目の研究を進めているところである。2年毎の研究の成果は、協議会が発行する「研究活動報告書」にまとめられている。

中津地区公民館連絡協議会  
事務局長 山本 健吾

## 日田地区公民館連合会

日田地区公民館連合会は、日田・玖珠地区の公民館職員で構成されています。年に1〜2回の合同研修を実施しており、今年も11月16日に日田市役所で行いました。テーマは「これからの公民館広報のあり方を考える」。



公民館が住民との関係づくりを構築するのに、広報は有効な手段です。しかし、今一つそうならないケースが大部分ではないかと思えます。その原因は、公民館で取り組むこと・取り組んだことをただ報告するだけであり、①地域の課題や魅力が取り上げられていない、②見せ方・伝え方などに工夫が足りない、そして③住民の関係づくりのためのツールとしての機能が弱いことが考えられます。

今回は、広報のあり方や手法について学びながら、広報紙を含めた情報発信が住民と真のコミュニケーションツールになるための手法について学ぼうという趣旨で行いました。講師は、久留米市のデザイン事務所・サンカクキカク代表の宇佐川桂

吾さん。研修は3部構成で、第1部は通常の講義、第2部はワークショップでの疑似PR体験を通じ広報のポイントとなるキーワード探しについて学び、第3部では九重町公民館より宇佐川さんと一緒に発行している情報誌BASAREについての報告をしました。

全体を通して、住民と共感できるものを見つけ出し、それを広報に近づけていく重要性が強調され、広報づくりや情報発信だけでなく、これから公民館が住民に伝えていかなければならないことのヒントも得る研修になりました。



日田地区公民館連合会  
事務局長 竹尾 幸一

# わがまち公民館



その第1が、若い方、子どもたちを公民館に足を向けさせること。そのための方策として、主事館長の全日ひとり勤務、土曜日勤務日とし、日・月曜



大道校区公民館は、大分県上野の森口から西側、大分市の北西部に位置する世帯数5200余を有する校区館である。6年前手狭になったこともあり、新しく立て替えをした。150名収容できる集会室、研修室3室、調理室等9室を持つ公民館となったが、何にも増して市の中心部にありながら30余台分の駐車場を有しており、その利便性が極めて高いこともあり、26年度には、2849団体42865名の方からご利用いただいた。

本館が力を入れている2点を紹介したい。

第1が、広報活動の充実。月に1回市報配布日に合わせ、「ムツカラ帽子」なる館報を回覧。公民館の活動報告や行事予定、地域社会の問題点や公民館からの提案等を試みている。「楽しみ」との声も聞かれるようになり、多少の効果も認められたようだ。

## 大道校区公民館

大分地区公民館連合会  
大道校区公民館  
館長 大渡 康宏

日を休館とした。その上で主婦と子ども向け事業を開設した。

「パン作り教室」、「韓国語教室」、「親子料理教室」、4年生を対象とした「わくわく広場」、等々である。前者は、教室生も多く複数年の「自主団体」として学習を続けている。

わくわく広場は、校区の高齢者を指導者として招き、高齢者たちとの交流を図っている。また、必ず年に1回親子で参加できる教材を選択し、3世代間の交流の場ともしている。今年度は郷土料理・団子汁作りに挑戦させた。夏休みには小学生を対象とした「大道夏休み塾」を開催していることも付加しておく。

## 竹田市中央公民館入田分館

豊・佐地区公民館連合会  
竹田市中央公民館入田分館  
分館長 白井 幸光



入田分館は、築85年が経過する旧施設を平成24年3月に新しく改築した建物である。291世帯、人口6111人程の小さな集落地区に所在するが、昭和29年の「昭和の大合併」までは入田村役場庁舎があった場所に位置するため、地区の中心地で県道沿いであり、駐車場も十分に確保されている。このことから、非常に多くの団体が利用している。平成26年度中の使用実績を見ると33団体2,404人が会議等で、パソコン

教室、英会話教室、習字教室、高齢者等が集う9教室、1,815人が利用しており、毎日といつていいほど部屋は暑がっている。

改築の際に、女性料理グループ「白百合」の会員が調査と研究を重ねて、公民館では市内唯一のオール電化調理台4台を備えた最新の調理室を整備しており、その調理室では、白百合グループの指導による男性料理教室や老人料理教室が行われている。お陰で、各地から見学者が来館して、羨ましがられている。

各家庭に眠っていた子供の漫画本や小説本、事典等が多数寄贈されてミニ図書館も開設している。

また、当館は市役所の連絡所機能も有していることもあり、市から、地域内の諸団体への書類配付や調査・提出物集約を依頼されることも少なくない。高齢化により自動車の運転ができなくなっていること、過疎化により公共交通手段も極端に少なくなっているため、地域住民の方が各種提出物や調査報告物などを当館に持参して来ることからその中継ぎもを行っている。

このような状況は、過疎と高齢化の進展する集落では年々増えついで、当館の地域における必要性とその役割はますます重要になってくると考えられる。



大分県教育委員会からの  
お知らせ

表彰

大分県公民館連合会表彰

【優良公民館】  
国東市来浦地区公民館

【公民館優良職員】

国東市国見生涯学習センター  
(国東市伊美地区公民館) 館長

都留喜多男 氏

大分市長浜校区公民館 前館長

工藤 章英 氏

大分市東植田校区公民館 館長

堤 詔司 氏

豊後大野市菅尾地区公民館 前館長

浅川 忠彦 氏

豊後大野市菅尾地区公民館 前主事

神志那礼子 氏

竹田市公民館入田分館 分館長

白井 幸光 氏

【公民館勤続職員】

国東市南安岐地区公民館 主事

松原 栄子 氏

国東市伊美地区公民館 主事

伊美 哲二 氏

国東市西武蔵地区公民館 前主事

湖上 光治 氏

竹田市公民館玉来分館 分館長

野仲 憲士 氏

広報コンクール表彰

【公立公民館報の部】

◆優秀賞

日田市前津江公民館

「まえつえ公民館だより」

佐伯市鶴見地区公民館

「海音」

大分市坂ノ市公民館

「ふれあい」

◆優良賞

佐伯市蒲江地区公民館

「公民館報かまえ」

竹田市公民館宮砥分館

「宮砥分館だより」

【自治公民館報の部】

◆優秀賞

別府市鶴見町公民館

「鶴見町自治会公民館だより」

大分市植田校区公民館

「公民館だより」

◆優良賞

別府市関の江新町公民館

「せきのえしんまち」

別府市朝見一丁目一区公民館

「公民館のしおり」

【学習資料の部】

◆優良賞

豊後大野市中央公民館

「元氣いっぱいみくに学園」

平成28年度

事業の予定

【大分県公民館連合会】

総会

期日：5月24日(火)

場所：県立社会教育総合センター  
(別府市)

(議事)・27年度事業報告、28年度事業計画等について

・28年度会費について

・当面する事業等について

公民館関係職員研修会

期日：5月24日(火)

場所：県立社会教育総合センター  
(別府市)

※総会終了後開催

公民館新任職員研修会

期日：6月23日(木)

場所：未定

公民館長・主事研修会

期日：7月14日(木)

場所：未定

第67回大分県公民館研究大会

期日：10月19日(水)

場所：日田市(パトリア日田他)

内容：記念講演、分科会

大分県公民館連合会表彰

募集期間 4月～6月

・優良公民館 ・優良自治公民館

・公民館運営実績委員会功労者

・公民館優良職員 ・公民館勤続職員

※大分県公民館研究大会にて表彰

大分県公民館連合会広報コンクール

募集期間 4月～6月

・公立公民館報の部

・自治公民館報の部

・ポスター・チラシの部

・ホームページの部

・学習資料の部

※大分県公民館研究大会にて表彰

機関誌「ひろば」発行

期日：29年3月下旬

年1回発行(第31号)

【九州公民館連合会】

第67回九州地区公民館研究大会

期日：8月25日(木)～26日(金)

場所：宮崎市

大会テーマ

「地方創生は、公民館から」～地域愛に燃える人づくりや活力ある地域づくりをめざす公民館活動～

【全国公民館連合会】

全国公民館連合会表彰

期日：8月26日(金)

場所：宮崎市

優良職員表彰、永年勤続職員表彰等

第28回公民館全国セミナー

期日：平成28年1月

場所：東京都国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)